

雁

書

物

涉

雁

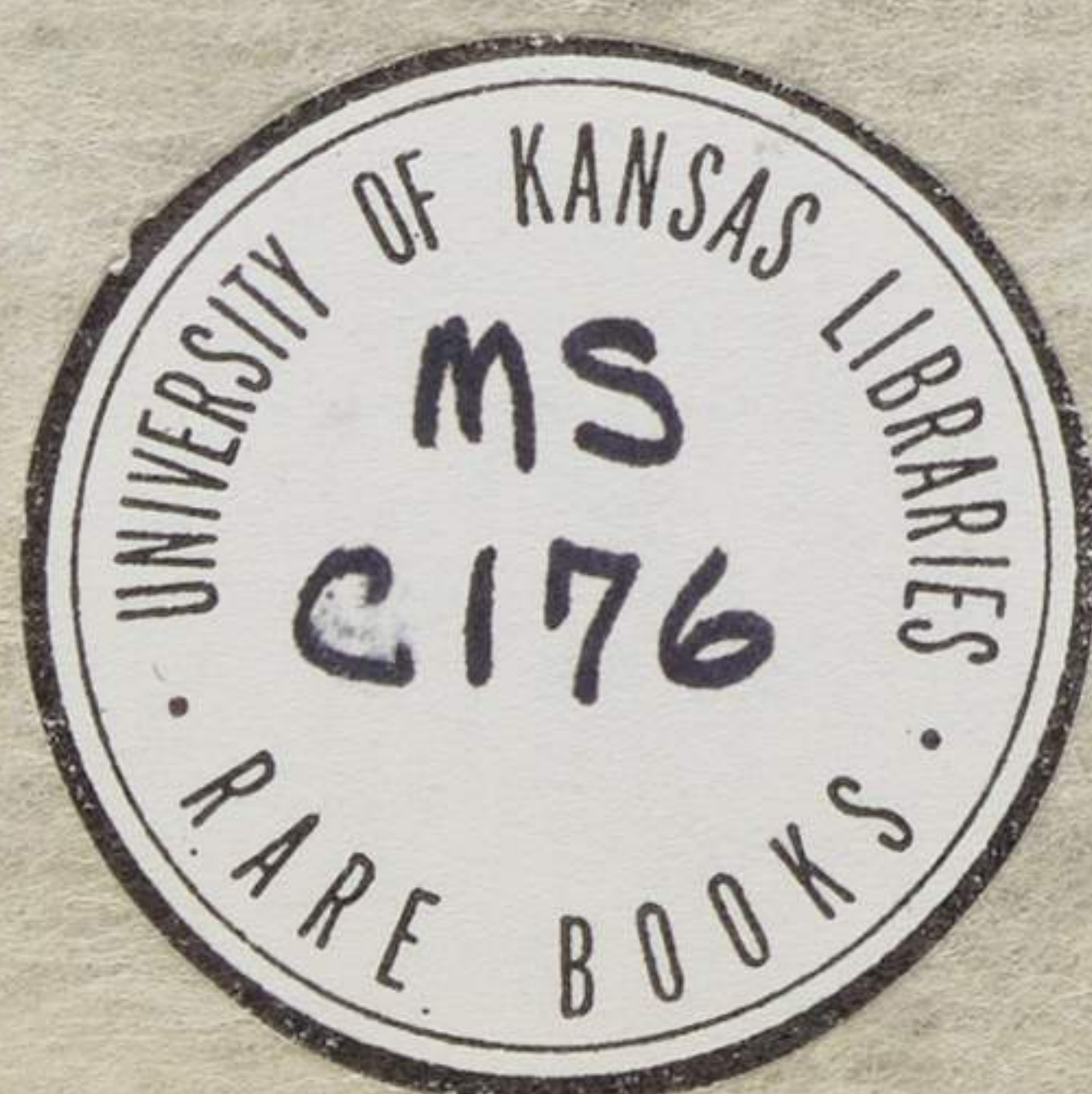
名

萬物皆備於我
而心之未盡
者寡矣
此語最難
解

鷹書物

黃

登錄第	2939	號
第	VIII	門
第	3	部
記號	D.	
函架		
平野圖書箋		



柳鷹名



陸佃曰一歲ヲ曰ニ英ニ多ク下ニ和ニ多クヤカメカト訓セリ

今俗ニ英ニ多クニ北スサレト書ヲ羽白ハセル多ク又ハシハハ

ラリ依ニ徒ス

^{カウ}
韓ア絞

英多ク小直一カ多ク

糸院ノ名爲成韓卷トハ又曰本紀仁德帝ハ

法字阿彌古捕異名ハ而缺乏酒君曰百濟俗字二

比鳥^ニ曰^ハ俱^ニ知^ル是^レ今^ノ時^ニ也^一云^ハ仁^ノ德^ヲ帝^ノ是^レ予^ニ賜^ル其^ノ
卿^ノ幸^ヲ也^一 伯^ノ君^ノ初^ニ鷹^ノ許^ニ放^ス云^ハリ^一 然^レ一^ニより^一け^レた^レん
却^レ門^ノ文^ノ野^ノ禁^ノ野^ノ字^ノ多^ク川^ノの^ノ遠^ニ遠^ニを^レあ^ハま^ハり^一
韓^ノと^ハい^フる^一と^ハ云^ハ故^ニ矣^一 所^ニを^レ後^ニと^ハい^フる^一子^ノ細^ノ虎^ノ大^ノ徒^ノ
少^クに^ハ後^ニ綿^ノと^ハい^フる^一の^ノ物^ノと^ハい^フる^一是^レ統^ノと^ハ遠^ニ家^ノを^レあ^ハま^ハり^一
海^ノと^ハい^フる^一是^レ事^ノを^レ後^ニ初^ニ集^ノを^レあ^ハま^ハり^一人^ノは^レり^一是^レ其^ノ也^一
初^ニと^ハい^フる^一是^レ統^ノと^ハい^フる^一と^ハ周^ノと^ハい^フる^一也^一

三ノ

明星

是年冬

眼の光もふさふさなり

イカサキ
盤裂

右張志武之書相懸行草

是也全氣之精也所謂神代卷五

朝風

年ノ墨苑

香面膏

くけしとて落しる地へをふり
きよなる心家の如風

和

いふも志つふ事なり九死一生の場哉

大方なりやうなり首出ぬ国平頼と云ふ事なり父哉

終ふ事れ甚なりいふ事なり毛一夜ふ知ふ事なり終

ぬ事なりいふ事なり成なる事なりいふ事なり

余事なりいふ事なり

後印

意。骨法曰眼如愁胡。鷹之眼相接。眼乃方々り。

フナ十三

友浪

一筆院の名。友浪。友花。友次。と云ふ。

尾花

新殿より来る

秋風。尾花の以のかけし。

神次から来る人

新殿より

深草

石目

花指 ハナスリ

雲雀取。子守へ

シヨリナラサセのまの秋の粘文

花ふもりの家秋の泉光鶴 香南亭

生ものといふ新のまの秋と兄鶴と云ふ

友指 アチハカヒ

能く割らるるを云ふ

友指とは股の面の毛をうへようねてゆり毛に 連奇

雨たふさぐくんのうさへ友指

ヤ
ク
チ

法蓮之字

山と山との神を祀りて安んずるを
周を祀る

後付工多し傾知と云初

揮 舞

烟愁欲寄

掉姫より去年の暮るを春ぬるやけいふとあぢ

百首ふりて又廣くも
共なり

一条院の
山娥と云ふ

夕年

環

初雪

訓 自由成長を促す

細意の白身入る養育を要する

禮の月令ふきの初め果てく

おは白しきなり

白雪

白身のみよりなり 大や

淡金とく又眉白くくく眉の毛ひらりと白く

ひらき若白く白く白く白く白く白く白く白く

信

信

みらのくくくくくくくくくくくくくくくく

あまをくくくくくくくくくくくくくくくく

紅梅

赤さ毛のきくくくくくくくくくくくくくくくく

きりぎりすのうしろの白き年とてかたむねの梅の枝

きりぎりすのうしろの白き年とてかたむねの梅の枝

松枝 こうき くらも 祿

卯の陽とてかたむねの梅の枝

くらも 祿

松の枝とてかたむねの梅の枝

桐 きりぎりす 壺

相毒の水を飲め茶を飲め酒を飲め

奇

相毒の水を飲め茶を飲め酒を飲め

カトコヤニ

胃山

八幡宮河内縣愛人の心ふくむ

水漬

ミウロミ

雄畧天正河内縣愛人の心ふくむ

薑葱

カホリ

生姜葱毛をとらるるをみるんふ入て

霜しも降ふり

も霜れ降るも似るくもなを
霜の降るも

校しやう衣い

衣の毛肩乃やしくの毛いふ
校衣は縁あるまじくいるを衣にし

冬ふゆ月つき

冬くさくさなる衣の毛いふ
さる衣の毛いふも縁の毛もいふ

冬ふゆ返かへり

冬の返なる衣の毛いふ
返る衣の毛いふ

喜柳 アキ

喜柳 アキ 喜柳 アキ 喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ

喜柳 アキ


 石三

冬小秋武山雪の草をとりて
さへみえしものなるが故

高白堂

子敬

あきなりふし

人等と初め合と突等の手教と云

以上三十

如ふ大なるし書い
 大なるし書い
 大なるし書い

般船 ^{イロ} ^子

天智天皇の御時を般船より入

神代山への般船より分中を

能行する般船より分中を

高田山へ行く



淡

天



